

# 県高支部ニュース 2008. 5.27. No. 7

兵高教組神戸県立支部 神戸市中央区北長狭通5-2-10 TEL/FAX 078-351-3252  
支部ニュース投稿先: 県高支部E-mail: ken\_koube@yahoo.co.jp 兵高教組HP: http://www.hyogo-kokyoso.com/

## 公立高校入試制度大激変で、子どもたちと学校は!?

兵庫県の高校入試制度を考える市民シンポジウム 2008/5/24 於：西宮市

神戸第3学区からの報告：

複数志願についての県の「アンケート」には、「自分の学力で選んだ」という項目が無く、「校風」や「特色」などを選ばざるを得ないようになっている。それで県は、「学校の特色が生徒によく理解されている」とか「いわゆる受検学力のみによらない学校選択が進んでいる」などという結論を出している。こんな身勝手な「検証」で「受験緩和」を結論する県教委は、あまりにも高校生と学校現場とを馬鹿にしている。



私たちが独自に行ったアンケートでは、県の結論とは逆の実体が出ている。受験で学校間格差を気にした生徒は8割近くになっている。

また、今年度の入試結果についての県の資料によれば、ある人気校で、昨年9月段階で希望者は348人だったのが、受験時には219人で、合格者は252人だった。この数字は、複数志願制によってどれだけ生徒と中学校が混乱させられているか、を表している。

保護者（尼崎）から  
特色といっても、内申と成績で選ばれるのでは特色ではなく、特別進学のためのクラスであって、学校全体の特色とは言えないと思う。

保護者（神戸第二学区）から  
複数志願制になる、ということで、「二つ受けられるんでしょ」という噂を信じて歓迎している母親たちがいる。だから、学習会を開いて本当のところはどうなんだ、ということを知らせなければならない。今、中学校の先生より、塾の先生が信頼されている。しかも、複数志願制に詳しい神戸第三学区の塾の先生がいい、という噂が流れている。とんでもないことだ。

高校教師から  
・複数志願では、「特色化」を出すために校長を中心に爆走する。それで、現場が壊れる。  
・競争からはじき飛ばされた子どもたちが集まってきているが、経済格差が定着してきている恐怖感がある。新しい校長が、複数志願導入に向けて「特色化」を「既にありき」で言っているが、これは許せないことだ。  
・特色化で、ある人が「コミュニケーションということで、取りあえず何でもできるようにしておけばどうですか」と提案し、実際にそうなった。  
・特色化では、学校が平気でウソを宣伝している。たとえば、「教員養成」を謳っている高校があるが、では教員養成の大学は必要ないのか？ 受験生に誇大広告を出して選択させ、選んだ生徒の自己責任とする。内実は、進路の保障もなく、それに見合った施設もない。これは、社会問題になっている偽装とまったく同じ「偽装」だ。(要旨文責：SN)

川崎副支部長にきく

## 「世界一高い学費」について

記者 - 聞きましたで、私立大学では毎年20万人が「経済的理由」で退学してるっていうやないですか。国内総生産に占める高等教育予算の水準がOECD平均1%やのに、日本は加盟国中最低の0.5%やっていうやないですか。'70年1万2千円やった国立大学の授業料が今53万5千800円、日本の公共料金中、最大の値上げやっていうやないですか。これってどうよ！

川崎 - むう、勉強してきはりましたな。日本学生支援機構の返済を3ヶ月以上滞納してる人が'06年度末20万人に届き、その額が2千億円をこえるそうです。滞納理由のトップは「低所得」22%、次が「無職・失業」20%で困窮から払いたくても払えない状況になっていることが分かります。滞納の内訳をみると、無利子貸与はほぼ横ばいながら、有利子貸与が大きく増加しています。この有利子率は'99年度から大幅に拡大、その滞納額は'01年度から急速に増えつつあります。それやのに文科省は、有利子率を今年度7.4万人増加させ、有利子率と無利子率の比率を'98年度の1対3から'06年度には2対1に逆転させ、さらにその方向を拡げようとしています。国立大学の授業料減免率は'82年12.5%やったのが今5.8%です。私立大学にいたっては国の予算率は0.1%ですぞ。

記者 - そら、またなんでです？

川崎 - 政府の“受益者負担”の方針ですよ。

記者 - 憲法に「ひとしく教育を受ける権利」が定めてあるやないですか。「すべて国民は～経済的地位～によって、教育上差別されない」ってあるやないですか。若者が新しい知識や技術を身につけるのは社会全体の貴重な財産になるやないか！

川崎 - あんた、エライこというやないか。されば国連が「国際人権規約」に「高校や大学の教育を段階的に無償にする」と定めたのが'66年。日本政府はこの規約に加わりながら、この条項は「留保」したままでっせ。条約加盟国157のうち、未だに「留保」を続けているのは日本とマダガスカルとルワンダだけやて。はずかしいけど、あとの二つがどこにある国か僕は知らん。'01年に国連から「はよ留保を撤回せんかい」って勧告されたのに、'06年の回答期限が過ぎても政府は回答を放置したままや。情けないやないか。一方で在日米軍への“思いやり予算”が2千億円以上。情けないやないか。

(このインタビューは、この調子のボヤキがエンエンと続きましたが、今回はこの辺で。)

\* 県高支部ニュースは、高教組ホームページからカラー版でござらんになれます

### 5～7月の予定

5月31日(土)	兵高教組第92回定期大会	10:00～	神戸市勤労会館
6月1日(日)	第2回 臨時教職員のつどい	13:30～	神戸市勤労会館
	変えよう! 「格差社会」集会	14:00～	神戸市勤労会館
7月5日(土)	支部大会	?	高教組会館
	6日(日) 母親大会	9:30～	神戸文化ホール等

# アーサー・ビナード氏講演

2008/5/25 於：新長田勤労市民センター

今、アメリカでは20%が無保険状態の国民が20%に達していて、こんな小咄さえ生まれている。  
「ガンを手術しなくては行けないと言われたが、とても手術費用は出せない。すると主治医は、レントゲン写真の方をきれいに修正してくれた。」  
アメリカ政府も日本政府も、そういうレントゲン修正ばかりやっているようだ。  
.....そういうお話しから始まって、笑いと涙で、話は尽きない。ここでは、いくつかの話に絞って紹介する。

## 「国防」という箱のなかに入った侵略戦争

1947年、アメリカは、共和国から帝国に変わってしまった。

戦時だけ予算が付く "Department of War" の再編で、予算が常時付く "Department of Defence (国防総省)" が生まれたのだ。これ以来、アメリカが起こした200を超える侵略戦争は、すべて「国防」ということになってしまった。しかし、米国本土での「国防」はただの一回もない。すべては侵略戦争だが、これらはすべて、"Defence" と意味づけられた箱の中に入れてられている。たった一回だけ、2001年9月11日に、本土「国防」のチャンスがあったが、このときには、何もしていない。

ピキニ環礁でヒロシマ型の千倍規模の水爆実験をしたのも、ベトナム戦争で数千万リットルの枯れ葉剤（モンサント社製）をまいたのも、イラクで100万人の人々を殺し続けているのも、劣化ウラン弾をせっせと使い続けているのも、すべて「国防」である。つまり「国防」とは、『国家を操る企業の膨大な利益を守ること』ということになった。

## 第五福竜丸事件

1954年3月1日、太平洋の真ん中少し西にあるピキニ環礁で、アメリカは大規模な水爆実験を行った。しかし、そのとき、アメリカが勝手に設定した危険区域外の公海上で操業していた第五福竜丸はその地獄の火の玉を目撃し、その後降り注いだ死の灰を浴びてしまった（その他にも船はいた筈だが、生き帰ったのは彼ら23人だけだ）。

無線長の久保山愛吉さんは、目撃した物の危険性を直感し、みんなに伝えた。「船が飛行機が見えたら知らせる。すぐに無線を打つ。見えなければ、無線は打たない。」その判断は、英雄的な、すごい判断だった。もし無線を打てば、秘密漏洩を防ごうとする米軍に知られてしまう。（米軍の）船が飛行機が来たら、撃沈される前に、ここに居たということだけでも知らせなければならぬ、ということだ。第五福竜丸は、一切の無線を切り、まず真北に向かい、その後2週間かけて、3月14日に故郷の焼津港に戻った。

彼らの証言は新聞の一面に大きく報じられ、さらに世界中に配信された。

## 「邦人漁夫、ピキニ原爆実験に遭遇」「死の灰」「水爆か」

9月、久保山さんは、放射能病で亡くなった。彼は、世界にとって、ホメロスのオデュッセイアにも喩えられる英雄なのだ。決して、普通に物語られているような、「可哀想な犠牲者とか被害者とかの箱」の中に入れてはいけない。

そして、この第五福竜丸の生還によって、世界中で、原水爆禁止運動が始まった。

## モンサント社

枯れ葉剤が大量にまかれて無数の犠牲者を出したベトナム.....膨大な利益を得た企業は、やがて枯れ葉剤に強い「菜種モドキ」を作り、農薬に化けた枯れ葉剤とセットにして日本に輸出している。周辺の草を枯れ葉剤で駆除して成長した「菜種モドキ」は、日本の食材に溶け込んだ。（日本の食糧自給率は40%を切っていて、モンサント社の標的になっている。日本政府は、「国防」なんてちっとも考えていないのだ.....）(要旨文責：SN)

# 神戸の歴史を歩いてたしかめよう！

第6回 第1、2抑留地跡



1941年、アメリカ等との開戦後、日本とアメリカとの在住民交換に応じず（応じられず？）残留した「敵性外国人」や日本軍占領地での「敵性」民間人を収容した施設が神戸には数カ所あったとされています。その一つが、ここ「旧松蔭女子学院」のあった場所とされています（左写真のマンションの建つ場所、第1抑留地）。

なお、松蔭女子学院の「松蔭」の名前は、マンションの前に設置された石碑（左の拡大写真）をみると想像できますが、かつて松の巨木が茂り、その松の大木の「蔭」の場所に学校が設立されたことに由来します。ここは西国街道の北周りの道

で、街道の目印となりました。

「松蔭」の由来となった松の巨木は、三本あり、神社（三本松不動院、下写真）のご神体として祀られていました。残念ながら現在は枯れてしまい、その切り株（右写真）のみを残しています。



北野町にはもう一カ所抑留地（第2抑留地）があり、現在「ベンの家（旧アリソン邸・1902年築）」として公開されている「異人館」（下写真）です。開戦時は、海運会社の社宅であった

と聞いています。

これらの「施設」にはほぼ開戦と同時に占領されたグアム島のアメリカ系の民間会社の社員等が収容された場所と聞いています。

\*注：松蔭女子学院、「三本松不動院」「ベンの家」と現在の居住者および所有者の皆さんは、戦中の「敵性」外国人収容には一切関係はありません。

「旧松蔭女子学院」跡は 中央区北野町1-2

「ベンの家」は 中央区北野町2-3

